

戦略的イノベーション創造プログラムに係るガバニングボード（第26回） 議事要旨

1. 日 時 平成27年4月16日（木）10:00～10:07

2. 場 所 中央合同庁舎8号館 4階416会議室

3. 出席者

総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）

久間議員（座長）、原山議員、内山田議員

小谷議員、中西議員、橋本議員、平野議員

内閣府 森本統括官

中西審議官、中川審議官、松本審議官

真先参事官、福田参事官、西條参事官

4. 議 題

平成26年度評価報告書案について

5. 配布資料

資料1 戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）平成26年度 評価結果（案）

資料2 第9回総合科学技術・イノベーション会議の持ち回り開催について

6. 議事

平成26年度評価報告書案について

○久間議員 それでは、第26回戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）ガバニングボードを開催いたします。

本日の議題は、平成26年度評価報告書案についてです。2月19日、26日の2週にわたりまして、外部有識者の先生方を評価者にお迎えして、平成26年度末の評価を行いました。この評価結果に対する御意見、御指摘を整理いたしまして、事務局で取りまとめた評価書案について議論していただきます。

なお、本日は公開で開催いたします。

それでは事務局から説明をお願いします。

○福田参事官 S I P担当参事官の福田でございます。よろしくお願いいたします。

お手元の資料、クリップを外していただきますと、資料１として報告書、即ち26年度評価結果の案というのがございます。その次に、２枚紙で資料２としてプレスリリース、持ち回り開催についてというものがございます。それから席上配付のみですが、参考資料１といたしましてA３の資料、参考資料２として同じくA３の資料がございまして、最後に参考資料３として、この評価結果【概要】（案）というのがございます。

まず資料１の報告書でございますが、参考資料１のこれは、先ほど久間議員からお話がありました２月の評価のときに皆様に評価をいただきまして、そのコメントをまとめたものでございます。当日のコメントに加えまして、当日の議論で出てきました指摘、これも記載して整理したものでございます。

この当日のコメントは、基本的に全部、報告書の中に様式を整えた上で盛り込んだという形をとらせていただきました。また、報告書の中では、大きく制度の評価と課題の評価をいただいたのですが、それぞれ評価項目ごとの点数づけもいただきました。この点数の平均点、それから課題ごとの評価のAからDまでの総合評価の結果、こちらのほうも報告書のほうには記載しております。

それから参考資料２というのがございます。こちらは、それぞれの審査の視点ごとに、改善すべき点として指摘をいただいたもの、これを抜粋いたしました。現在、制度については、私どもS I Pの総括の事務局のほうで、また各課題につきましては、それぞれの課題の担当のところでP Dと御相談しながら、この指摘に対してどう応えて改善していくかということを、検討してございます。

次回、今年度末の評価のときには、この改善すべき点に対する対応がどうなったか、この点も含めまして、評価をいただきたいというふうに考えてございます。

それから資料２でございますが、この評価結果を、先に総合評価の結果をまとめさせていただきまして、この資料２の後ろにございます配分案を決定いただきました。無事、今週月曜日に第９回の総合科学技術・イノベーション会議、持ち回り開催させていただきまして、そちらで配分を決定いたしまして、スタートが切れたというところでございますので、こちら、御報告させていただきます。

それから参考資料３でございますが、こちらのほうは、まだ案の状態でございますけれども、昨年の例でいいますと事前評価をいただきまして、その結果をC S T I 本会議のほうに報告いただいております。

これは、実際にこの評価報告をするときの資料の案でございまして、ざっと構成を申し上げますと、1 ページ目のところに実施体制、S I P の概要がございまして。2 ページ目には、S I P の対象課題、P D、それから26年度の評価をいただきましたので、26年度の配分額、これが並んでおります。さらに3 ページ、これ、もうちょっともし充実できればと思いますが、26年度、どんな成果が出たかと。ここではとりあえずエネルギーキャリアと海洋について取り上げております。さらに4 ページ以降、評価のやり方と、それから評価結果の抜粋というのが並んでございます。

こちらにつきましては、引き続き充実させていきながら、座長、久間議員のほうと相談しながら、完成に向けて進めたいと思います。

この報告書案につきましては、ガバニングボードのメンバー、それから外部有識者の方々に事前にメールで御意見を頂戴いたしまして、その結果を反映させておりますので、きょうは、時間の関係がありますので、内容の説明は省略させていただきます。

以上でございます。

○久間議員 どうもありがとうございました。

それでは皆様、御審議をお願いします。

よろしいでしょうか。どうぞ。

○原山議員 やはりちょっと一言。

この評価というのは、それぞれのプログラム・ディレクターが行っていることの評価もありますけれども、制度そのものも評価しているということで、趣旨は改善していくというものです。

そういう意味で、これまでは一度制度を作るとそのままやりっ放しになっていたのですが、毎年、毎年、チェックしながら修正していくというスタンス、やはり大事なことで、これもほかの施策を作る方たちにも、こういうやり方というのを広げていくことができたらと思っています。

○久間議員 よろしいでしょうか。

特に、今年1年やってみまして、評価をどうするかというのは、やはり非常に重要な問題ですね。だから、今年度非常によかったと思うのですが、来年度評価をよりよく、正しく評価できるような仕組みにしたいと思います。

よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

それでは異議がないようですので、本評価報告書をガバニングボードとして決定することといたします。なお、本報告書は、5月以降の総合科学技術・イノベーション会議において報告することとなっております。

以上で、第26回戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）ガバニングボードを終了します。本日はどうもありがとうございました。